總生寛
編纂

朝鮮新論

全

和装本
リ 6
4736

門 96
號 4736
卷

總生寛編纂

朝鮮新論

東京書肆

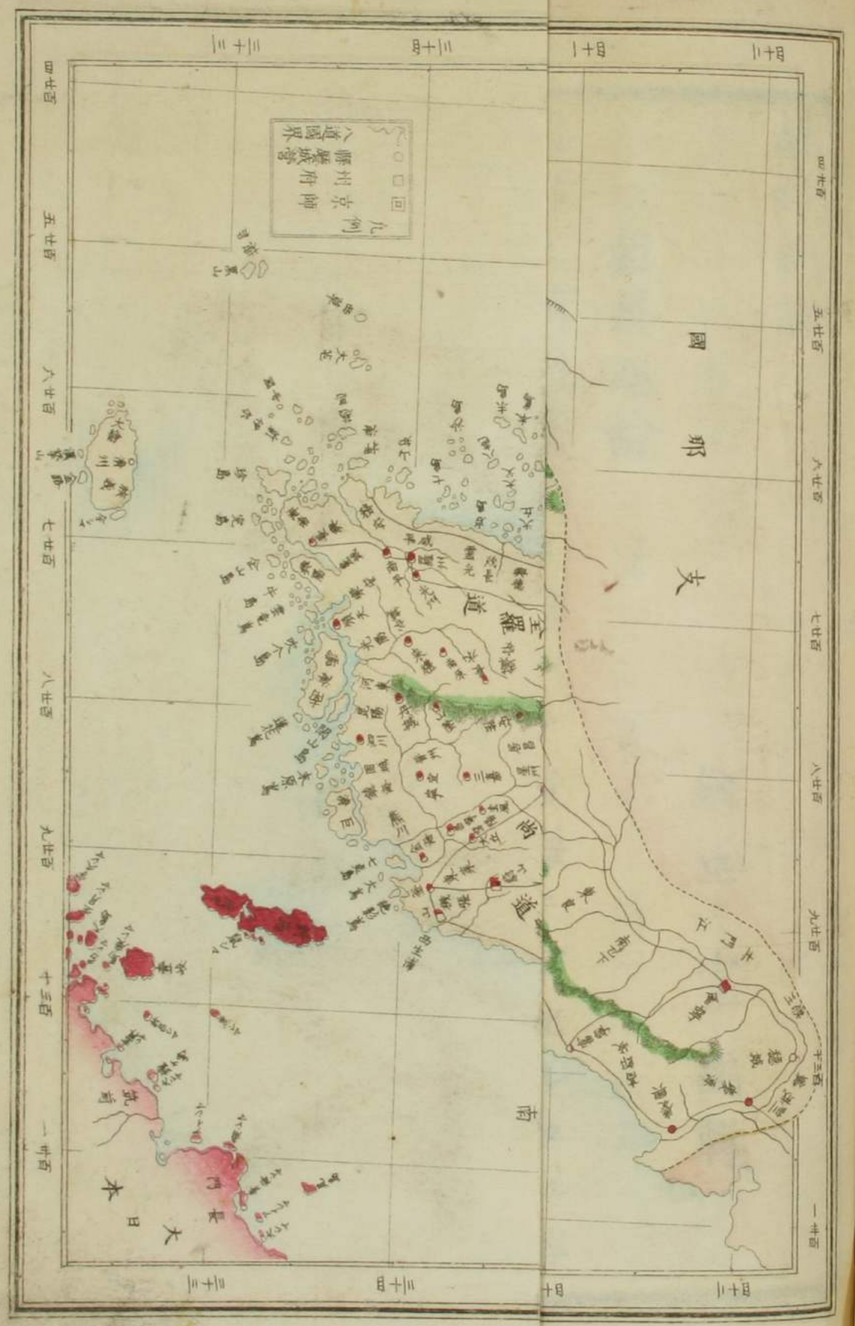
萬笈閣發兌

早稲田大學圖書館
藏

愛新社印

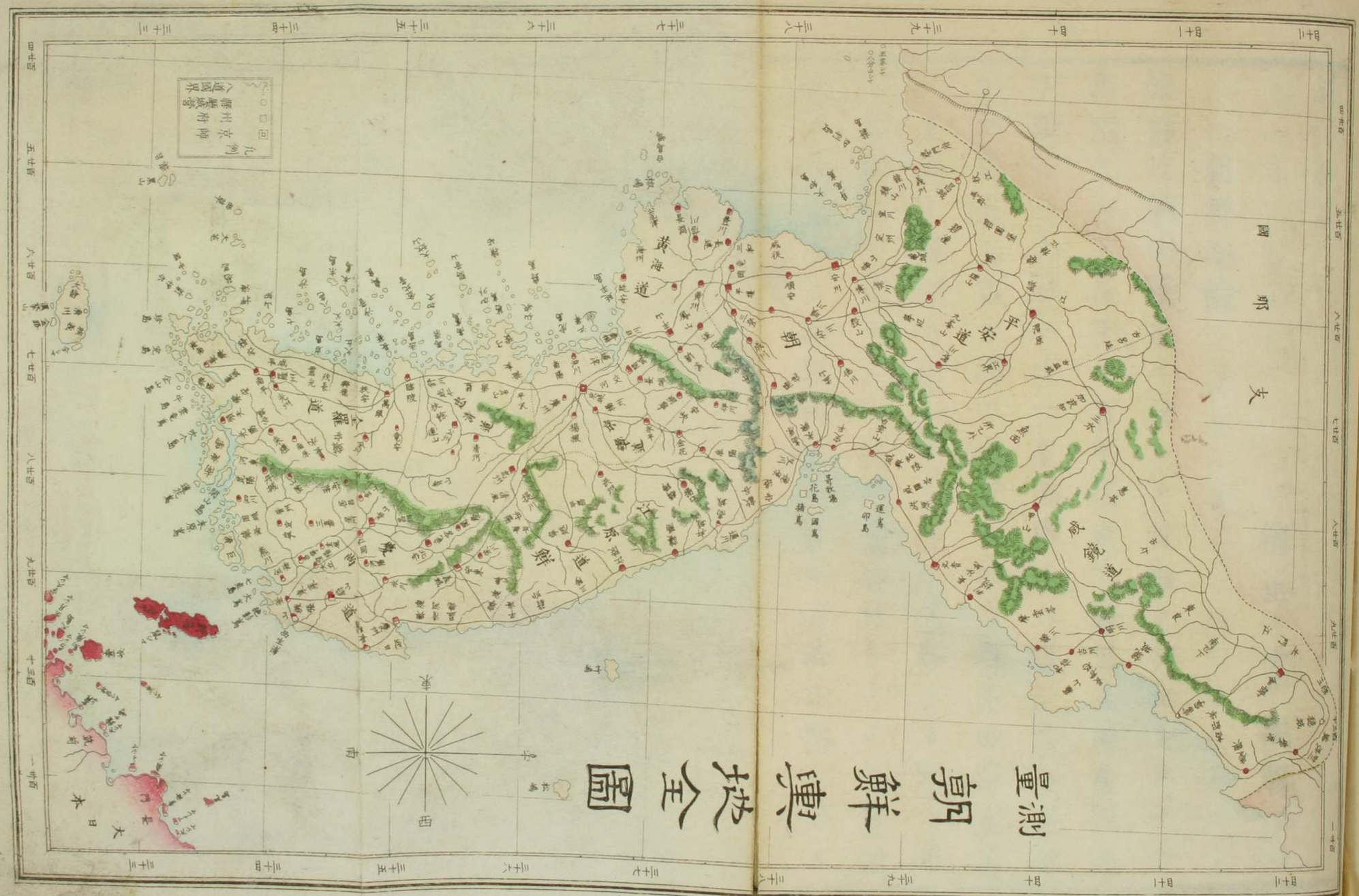
皇明治八年乙亥暢月

光被



四表

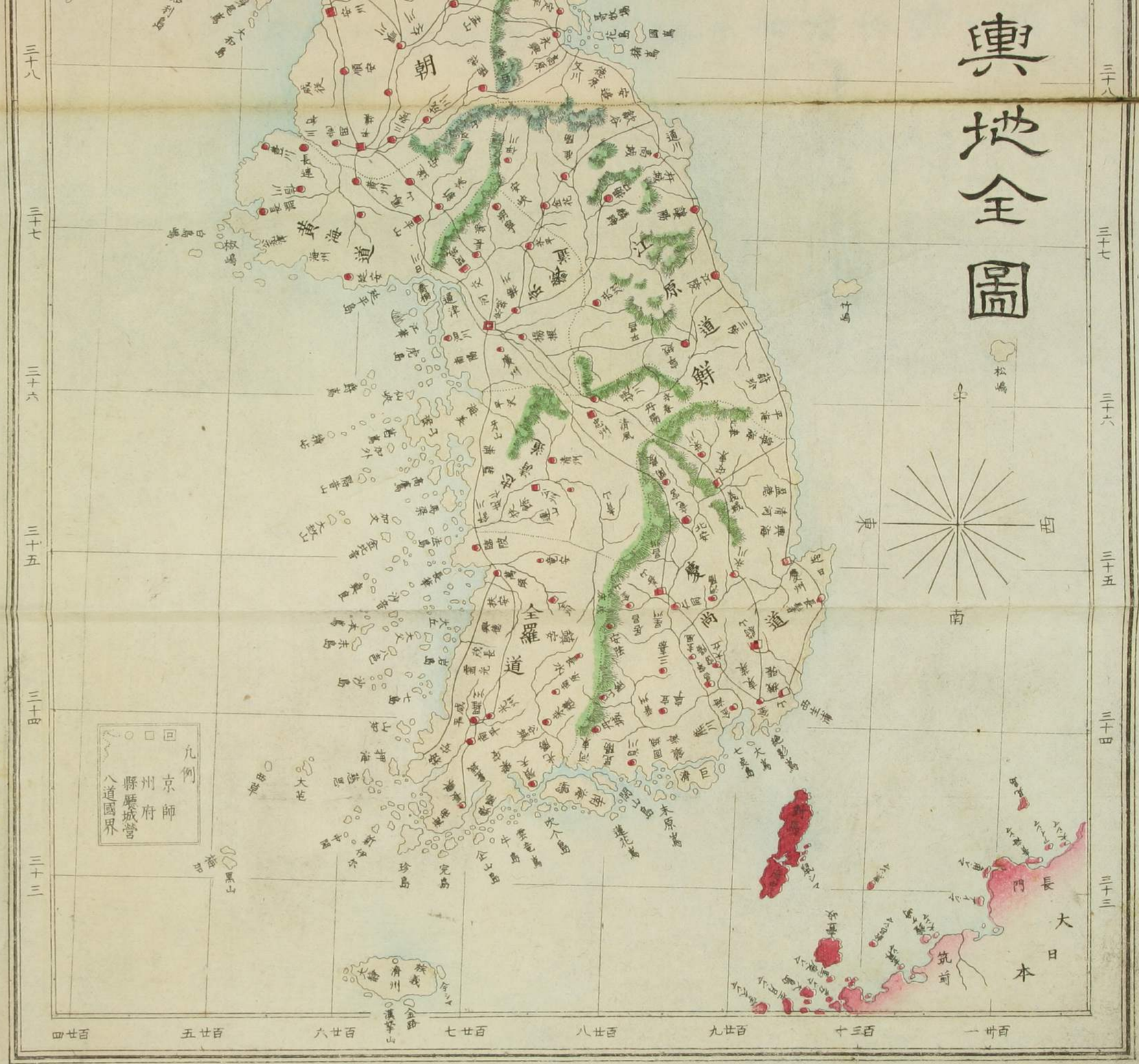
七十五翁羽磐溪題


國郡支
黃海道
朝
平安道
咸鏡道
鮮
江原道
慶尚道
全羅道
東
西
南
北
日本
對馬
壹岐
五島
大隅
薩摩
琉球
量測
朝鮮輿地
沿革
圖

七十五翁磐溪題

測量
朝鮮輿地全圖
支那國
平安道
黄海道
江原道
穩城
百三十
百三十一
百三十二
百三十三
百三十四
百三十五
百三十六
百三十七
百三十八
百三十九
百四十
百四十一
百四十二
百四十三
百四十四
百四十五
百四十六
百四十七
百四十八
百四十九
百五十
百五十一
百五十二
百五十三
百五十四
百五十五
百五十六
百五十七
百五十八
百五十九
百六十
百六十一
百六十二
百六十三
百六十四
百六十五
百六十六
百六十七
百六十八
百六十九
百七十
百七十一
百七十二
百七十三
百七十四
百七十五
百七十六
百七十七
百七十八
百七十九
百八十
百八十一
百八十二
百八十三
百八十四
百八十五
百八十六
百八十七
百八十八
百八十九
百九十
百九十一
百九十二
百九十三
百九十四
百九十五
百九十六
百九十七
百九十八
百九十九
百一十
百一十一
百一十二
百一十三
百一十四
百一十五
百一十六
百一十七
百一十八
百一十九
百二十
百二十一
百二十二
百二十三
百二十四
百二十五
百二十六
百二十七
百二十八
百二十九

輿地全圖


朝鮮
黃海道
咸鏡道
江原道
全羅道
慶尚道
巨濟
珍島
完島
濟州
金島
漢拏山
黑山
大芒
松島
竹島
筑前
長門
大日本
東
西
南
北
凡例
京師
州府
縣縣城營
八道國界
三十八
三十七
三十六
三十五
三十四
三十三
四廿百
五廿百
六廿百
七廿百
八廿百
九廿百
十三百
一廿百

朝鮮新論

總庄寛編輯

朝鮮総論

朝鮮ハ滿州遼東ニ接シテ黄海ニ突出シタル半島国ニシテ長サ二百里幅六十餘里其海角對馬ヲ距ルコト總ニ十一里國内ヲ八道ニ分チ主府ヲ京畿道ト名ク國ノ中央ニ位ス総テ市街家屋ハ支那ノ製作ト同シク衣服ハ支那ノ古製ヲ用ヒテ辮髪ヲ垂レス人種ハ蒙古種ニシテ性質遅鈍ナル者多シ兵器兵制ハ最モ古法古器ヲ用ヒ

テ絶テ泰西ノ新奇発明ノモノナシ

此國上古ヨリ土人ノ邦土ヲ拓キタルモノ其年代ヲ知ラス国ヲ建ル箕子ヲ以テ始祖トス其後國内乱レ衛満之ヲ平治シテ自立ス後数世ヲ歴テ邦土分裂シテ三韓トナル即チ新羅百濟高麗ト号ス現今ノ国王乃チ高麗ノ種属ナリ故ニ朝鮮或ハ高麗ト云フ

此國往古皇國ニ朝貢シ百工ノ技術ヲ傳ヘ又不庭ヲ以テ屢征討セラレアリ支那ヨリモ正朔ヲ奉シ朝貢シテ殆ント両属ノ勢アリシカ現今全ク支属ニシテ我邦ノ正朔ヲ奉セサルハ勿論却テ往古ノ朝貢ハ一時勢ノ止ムヲ得サルニ出テ臣妾スルノ例ナシト云フ然シ往古我日本ニ妾フル最モ慎ミ救ヒヲ請ヒ即位ヲ賀シ朝貢セシハ全ク知ラザルモノヽ如シ

我人皇十一代垂仁天皇ノ時ニ始メヲ新羅ノ朝貢セシヨリ百濟高麗相継テ入貢ス中古百濟亡ルニ及ンテ新羅高麗ノ朝貢能舊制ヲ守ル新羅礼ヲ朝庭ニ失フ依テ入貢ヲ禁ス継テ國亡ニ獨リ高麗朝貢ス

人皇十一代垂仁天皇ノ時新羅ノ王子天ノ日槍
帰化ス貢スル所ノ寶物ヲ但馬ニ藏ム土人崇奉
之ヲ出石ノ社ト云フ是レ三韓朝貢ノ始メ也
人皇十四代仲哀天皇反臣熊襲ヲ討ス偶々神ア
リ帝ニ告テ新羅ヲ討セシム帝從ガハズ遂ニ崩
ス
是ニ於テ皇后乃チ齋戒シ再ヒ神教ヲ請ヒ教ニ
從ツテ祭ル諸国ニ命シ船艦ヲ造リ兵甲ヲ練ラ
シム皇后身丈夫ノ裝ヲナシ斧鉞ヲ執リ三軍ヲ
令ス時ニ皇后身ム アリ適産月ニ當ル乃チ石ヲ

取リ腰ニ押ミ祝シテ曰ク願クハ吏畢リ還ン日
茲土ニ娩セン遂ニ和珂津ヲ発シ直ニ新羅ニ至
ル潮水怒涛横溢シテ海水國中ニ及フ新羅國王
波沙寐錦惶遽ナス所ヲ知ラス面縛来降ス其縛
ヲ解キ遂ニ其都ニ入ル皇后杖ツク所ノ矛ヲ以
テ國門ニ樹ツ傳テ今猶在ト云フ新羅王珡珍干
岐微叱已知ヲ以テ質トス誓テ曰ク大陽西ヨリ
出鴨緑江逆流ストモ久長臣服シテ後遠朝貢ヲ
欠ズ金銀彩色綾羅縑絹八十船ヲ献ス爾後調貢
ハ十艘ヲ以テ定額トス高麗百濟モ亦威風ヲ望

ミ帰降ス是ニ於テ三韓悉ク服ス乃チ官司ヲ置テ還ル

人皇十五代應神天皇ノ時百濟新羅ト共ニ朝貢ス時ニ新羅百濟ノ貢物ヲ奪ヒ相易テ献ス敕シテ新羅ヲ責問ス服セス荒田別(アラタワケ)鹿我別(カワケ)ヲ以テ將トシ百濟ノ人久氐(クテ)等ヲ率ヒ新羅ヲ討シ七国ヲ定メ南蠻ノ枕弥多禮(トシミタレ)ヲ屠リ其地ヲ以テ百濟ニ賜フ其後又新羅朝貢セス葛城ノ襲津彦(ソツヒコ)討テ之ヲ平ク初メ百濟王枕流(トンル)卒ス子阿花(アクワ)年少シ叔父辰斯(キノツヌ)ヲ位ニ即ク是ニ至テ紀角(キノツヌ)羽田(ハタ)失代(ヤシロ)等ヲ百

濟ニ遣シ辰斯ヲ責ム国人辰斯ヲ殺シ以テ謝ス角等阿花ヲ立テヽ帰ル

百濟高麗新羅入貢ス武内宿禰韓人ヲ領シ池ヲ作ラシム因テ韓人ノ池ト名ク其池今ニ於テ存ス

百濟王功滿王ノ子弓月君其國人ヲ率ヒテ歸化セント請フ葛城襲津彦(カツラギソツヒコ)ヲ遣シ之ヲ迎フ

百濟王縫衣(キメヒメ)女ヲ貢ス其後チ子阿直岐(アチキ)良馬ヲ貢ス阿直岐經典ニ通ス帝問フテ曰ク汝カ国ノ博士ノ秀ハ誰ナリヤ對テ曰ク和邇ナルモノアリ

一國ノ秀ナリ帝乃チ和邇ヲ徵ス百濟王和邇ヲシテ冶工呉服釀酒ノ師ヲ率ヒ来朝セシム并テ論語十卷千字文一卷ヲ献セシム

兵ヲ遣シ新羅ヲ討ス是ヨリ先キ襲津彦弓月ノ人ロヲ迎ヒ来ル途ニシテ新羅ノ爲ニ留メラル故ニ之ヲ討ス新羅王兵敗レ罪ニ服ス遂ニ襲津彦及ヒ弓月ノ人ロ歸ルヲ得タリ

阿知使主ヲ遣シ縫工女ヲ百濟ニ求ム百濟王女工四人ヲ献ス

百濟王阿花卒ス阿直岐ヲ國ニ還シ命シテ位ヲ嗣カシム

人皇十六代仁德天皇ノ時高麗入貢ス鐵盾鐵的ヲ献ス群臣ヲシテ之ヲ射シム衆能ク穿ツナシ惟リ戸田宿称射テ之ヲ洞ス使人大ニ驚キ起テ羅拜ス

高麗入貢ス表辭嫚ナリ皇子稚郎子大ニ怒リ使者ヲ召シ其無礼ヲ責メ面タリ其表ヲ壞ル

新羅朝貢セス使ヲ遣シ責問ス新羅懼ル乃チ調絹雜品八十艘ヲ貢ス後朝貢復タ絶ス精兵ヲ遣シ之ヲ擊タシム其將田道畢ヲ固フシテ出ス新

羅數来テ戦ヲ挑ム田道偶新羅ノ一卒ヲ獲軍ノ虚實ヲ問フ對曰ク百衝ナルモノ驍勇絶倫無ニ右軍ノ先鋒タリ若シ其右ヲ擊ハ破レルヿ必セリ田道精騎ヲ選ヒ其左軍ヲ擊ツ新羅ノ兵大ニ敗レ子ハ親ヲ捨テ親ハ子ヲ顧ミス後ヨリ北クルモノヲ皆追兵ナリトナシ右往左往ニ散乱ス我軍勝ニ乗ジ縱擊數刻殺傷無算遂ニ四邑ノ人民ヲ虜ニシテ帰ル

二十一代雄畧天皇ノ時高麗新羅ト好ヲ通シ兵ヲ遣シ新羅ヲ戍リ百濟ニ備フ新羅誤テ高麗ノ戍兵ヲ殺ス高麗怒リ新羅ヲ攻ム新羅恐レテ救ヒヲ我ニ請フ兵ヲ遣シ之ヲ救ヒ大ニ高麗ノ軍ヲ破ル

新羅後タ朝貢セス紀小弓擊テ之ヲ破ル新羅王罪ニ服ス

百濟王文斤卒ス未多ヲ其國ニ帰シ位ニ即カシム軍士ヲシテ之ヲ其國ニ護送ス我軍遂ニ高麗ヲ討シテ歸ル

二十四代仁賢天皇難波ノ日高ヲ高麗ニ遣シ工人ヲ求ム日高工匠ヲ率キテ帰ル

二十六代継體天皇ノ時百濟王五経博士段楊尓(タンヤウナ)ヲ貢ス

二十九代欽明天皇ノ時三韓尽ク貢献ス

百濟王明使ヲ遣シ金銅ノ佛像及ヒ幡蓋経論ヲ献ス上表其功德ヲ讃述ス

百濟王高麗ヲ伐ツ新羅高麗ト謀ヲ通シ百濟ヲ攻ム百濟敗績使ヲ遣シ救ヒヲ乞フ我軍百濟ヲ救ヒ新羅ヲ伐テ函山城ヲ攻テ之ヲ拔ク

百濟王新羅ノ為ニ殺サル

新羅任那ヲ滅ス兵ヲ遣シ新羅ヲ討ス我軍軽進利アラス二將虜セラル屈セスメ殺サル

兵數万ヲ遣シ高麗ヲ討ス大ニ之ヲ破ル高麗王犢ヲ踰テ逸ス我軍勝ニ乗ジ宮ニ入リ悉ク其珍寶ヲ獲テ還ル

三十代敏達天皇ノ時高麗上表ス烏羽ヲ用ヰ字跡辨セス人能ク讀アタハス王辰尓之ヲ取テ飲甑ヲ以テ蒸ス始メテ讀ムヿヲ得タリ

崇峻天皇百濟貢調ス并ニ佛舍利及ヒ僧慧聰等九人寺工鑪盤工瓦工畫工ヲ献ス

百濟駱駄驢羊白雉ヲ貢ス

新羅任那ノ兵ト戰フ兵万餘ヲ遣シ新羅ヲ擊テ
大ニ之ヲ破ル新羅侵地ヲ任那ニ帰ス我軍還ルニ
及ンテ新羅復タ任那ヲ侵ス兵二万ヲ遣シ新羅
ヲ討ス
推古天皇ノ時高麗朝貢ス兵ニ僧曇徴法定ヲ献
ス曇徴蓋ヲ善ス最モ五経ニ通ス
高麗朝貢ス并ニ隋俘及ヒ駱駝器械ヲ献ス
新羅復タ任那ヲ擊テ之ヲ取ル兵ヲ遣シ之ヲ討
ス新羅恐怖シテ罪ヲ請フ之ヲ釋ス
舒明天皇ノ時百濟王璋其子豊ヲ納レテ質トス

百濟ヨリ先帝ノ弔喪使来ル
高麗貢献ス
孝德天皇ノ天化元年秋七月三韓朝貢ス
二年高麗百濟朝貢ス
三年夏四月新羅百濟朝貢ス
四年新羅百濟朝貢ス
齊明天皇即位ノ元年三韓朝貢ス
六年夏五月高麗朝貢ス
秋七月百濟奏ス新羅唐兵ヲ借リ已レカ國ヲ滅
ス鬼室福信新羅ト戰ヒ恢復ヲ圖ル冬十月鬼室

福信唐俘一百人ヲ献シ且ツ救ヒヲ請フ
十二月兵ヲ遣シ百濟ヲ救フ
天智天皇ノ壬戌夏六月百濟貢朝ス
癸亥秋八月新羅百濟滅ス初メ帝諸將ヲシテ兵ヲ帥ヰ百濟王子豊及ヒ其叔父忠勝等ヲ護送國ニ歸ラシム既ニシテ豊福信ノ貳心ヲ疑ヒ之ヲ殺ス新羅之ヲ聞キ來リ攻ム唐ノ兵艦白村江ニ列ス我軍唐兵ヲ擊テ敗績ス二將之ニ死ス百濟王豊高麗ニ奔ル百濟遂ニ滅ス
元年戊辰百濟王忠勝使ヲ遣ス初メ百濟ノ滅ス

ルヤ豊ノ在ル所ヲ知ラス忠勝殘卒ヲ率ヰ命ヲ唐ニ請フ諸城皆復ス
秋七月高麗新羅朝貢ス
冬十月唐兵ヲ遣シ高麗ヲ滅ス
二年秋九月新羅朝貢ス
四年高麗朝貢ス高麗已ニ滅ブ新羅私ニ高安勝ヲ封シテ高麗王トナスモノナリ
百濟ノ諸臣ニ位ヲ授ル差アリ
三年二月百濟朝貢ス
弘文天皇元年壬申夏五月高麗朝貢ス

天武天皇元年夏閏六月新羅使ヲ遣シ登極ヲ賀ス

七年高麗新羅入貢ス

八年高麗新羅入貢ス

九年冬十月新羅入貢ス

持統天皇國喪ヲ新羅ニ訃ク明年使ヲ遣シ国喪ヲ弔ス敕シテ其無礼ヲ責メ其貢献ヲ却ク

巳丑年冬十月新羅遣唐学士及ヒ大佯部ノ博麿ヲ護送ス博麿ハ百濟ニ赴キ唐兵ニ執ラレ唐ニ三十年拘引セラレシモノナリ

三年冬十一月新羅使ヲ遣シ朝貢ス

文武天皇四年夏六月使ヲ新羅ニ遣ス

大寶二年冬十月新羅入貢ス

聖武天皇大寶七年秋七月使ヲ新羅ニ遣ス

天平七年新羅入貢ス私ニ國号ヲ改ルヲ以テ其使ヲ却ク

九年遣新羅使還テ奏ス新羅礼ヲ失ヒ使命ヲ受ズ是ニ於テ群臣ヲ召シ意見ヲ上ラシム

十年太宰府奏ス新羅入貢ス太宰府ニ命シテ之ヲ却還ス

十三年使ヲ新羅ニ遣ス
十五年新羅入貢ス其失礼ヲ責メ之ヲ却還ス
孝謙天皇天平勝宝四年夏六月新羅王子金泰廉
入朝奉貢ス
五年夏五月渤海使ヲ遣シ方物ヲ献ス且上表其
畧ニ曰ク使命ヲ賜ハラサル已二十餘年是以テ
使ヲ遣シ國ノ信物ヲ賫シ闕庭ニ奉献ス其報ニ
曰ク遠使入朝深ク嘉尚スヘシ但來啓ニ臣ヲ稱
セス仍テ高麗ノ舊記ヲ撿スルニ上表ノ文ニ云
ク親ハ是レ兄弟義ハ則君臣或ハ援兵ヲ請ヒ或
ハ賤祢ヲ賀ス朝聘ノ恒式ヲ修ム故ニ先朝其貞
節ヲ嘉ス惟レ王ノ知ル所何ソ今歳ノ朝貢禮ヲ
以テ進退スルナキヤ王其レ熟思セヨ今使人還
ル往意ヲ指畫シ并ニ物ヲ賜フ
渤海ハ高麗ノ新号也渤海ヨリ起リ高麗王ヲ
殺シ新ニ国ヲ建ルヲ以テ渤海國ト云フ
淳仁天皇三年春正月渤海来貢ス
六月新羅ヲ征セントス太宰府ニ敕シテ行軍式
ヲ造ル
四年渤海來貢ス

秋九月新羅入貢其禮ナキヲ以テ之ヲ却ク
光仁天皇寶龜。渤海来貢ス表文禮ナキヲ以テ之
ヲ却還ス
夏六月復タ来貢ス其無禮ヲ責テ之ヲ却ク
十年渤海来貢ス
十一年新羅来貢ス
桓武天皇ノ延暦十五年渤海入貢ス
十六年夏五月使ヲ渤海ニ遣ス冬十一月入貢ス
嵯峨天皇弘仁元年渤海来貢ス
二年使ヲ渤海ニ遣ス

五年秋九月渤海来貢ス
十二年冬十一月渤海来貢ス
淳和天皇ノ天長元年渤海来貢ス
二年渤海来貢ス
仁明天皇ノ承和九年太宰府奏ス新羅ノ朝貢其
来ル尚シ然レテ聖武帝ノ時ヨリ聖朝ニ迫テ舊
制ハ遵ハス常ニ姦心ヲ懷ク苞茅貢セス支ヲ商
賈ニ託シ國ノ消息ヲ窺フ請フ新羅ノ人境内ニ
入ヲ禁断セン之ヲ制可ス
嘉祥元年渤海来貢ス

清和天皇ノ貞觀元年渤海来貢ス
十二年新羅海賊筑前ニ入テ豊前ノ貢物ヲ掠ム
十一月太宰ノ少貳藤原元利麻呂私ニ新羅ト通ス
十四年渤海来貢ス
陽成天皇ノ元慶元年渤海来貢ス
六年渤海ノ使裴頲来ル菅原道眞島田忠臣之ニ接伴ス
宇多天皇ノ寛平六年新羅入寇ス對馬守文室善友擊テ之ヲ破ル大將三人副將十一人卒三百餘人ヲ獲タリ
冬渤海来貢ス
醍醐天皇延喜二十年渤海ノ使裴璆来朝ス
七年夏五月新羅全州ノ首酋甄萱使ヲ遣シ帰化セント請フ朝議之ヲ却還ス
白河天皇承保四年高麗使ヒヲ遣シ醫ヲ求ム之ヲ公卿ニ下シテ議セシム源経信曰ク高麗王ノ病我ニ於テ何ソ與ン竟ニ遣ラス
往古我國強シ故ニ殊域震慴朝貢相屬シ彼一タヒ叛セハ則チ六軍出征ス中古以降兵馬ノ

大權武門ニ歸シ爭亂相繼キ何ソ海外ヲ問フニ暇アランヤ故ニ彼ノ三韓ノ如キ支那ノ正朔ヲ奉シ久シク我ニ朝貢ヲ欠クモ海ヲ渡テ不庭ノ罪ヲ問フナシ衰弱ノ極此ニ至ル祖宗ノ積怨積憤待ツ所有テ發スヘシ

後陽成天皇ノ天正十八年朝鮮國王李昖使ヲ遣シ來聘ス

時ニ豊臣秀吉布衣ヨリ起リ海内ヲ掃除シ王室ヲ尊ミ皇威殆ント古ニ復ス明國通聘ヲ欠キ朝鮮朝貢ヲ欠ク秀吉之ヲ憤リ朝鮮ヲ先驅トシ明國ヲ征スルノ素志アリ李昖ニ書ヲ遣シ諭スニ其意ヲ以テス

文録元年秀吉柳川調信僧ノ玄蘇ヲシテ朝鮮ノ使ト共ニ朝鮮ニ赴カシム玄蘇朝鮮王ニ告テ曰ク明國久シク本朝ノ通信ヲ絶ツ関白秀吉竊ニ憤怒ヲ懷ク兵端ヲ起サントス朝鮮爲ニ奏聞聘使ヲ通セシムレハ則チ支無シテ止ン本朝ノ民亦兵革ノ禍ヲ免レン朝鮮之ヲ峻拒ス玄蘇曰往昔高麗元ノ兵ヲ導キ本朝ニ寇ス本朝此ヲ以テ怨ニ報ユ勢ノ宜シク然ルヘキ所ナリ朝鮮復

タ問ス使者復命ス秀吉又使ヲ遣シ朝鮮ニ諭ス朝鮮竟ニ報セス秀吉大ニ怒リ意ヲ決シ西征ス我軍海ヲ渡テ朝鮮ノ臣僚錯愕シテ措ヲ失フ所在ノ軍衆大ニ潰散我軍長驅シテ八道ヲ蹂躙ス遂ニ国都ヲ焼キ王子ヲ擒ニス朝鮮王恐懼置ク所ヲ知ラス急ヲ明ニ告ケ援兵ヲ乞フ明主精兵五千ヲ以テ朝鮮ヲ救フ明ノ援兵大敗士卒悉ク死ス明主之ヲ聞キ挙朝震動ス明主沈帷敬ヲシテ和ヲ議セシム我兵約スルニ七條ヲ以テス其一ハ和議其二ハ朝鮮ノ三道ヲ割キ我ニ与フ

其三ハ通聘其四ハ封爵其餘ノ三ハ史逸シテ傳ラス二年和議調ヒ朝鮮征討ノ兵ヲ召シ還ス大慶長元年明使朝鮮ノ使ト共ニ来リ璽書冠服ヲ献ス秀吉人ヲシテ之ヲ讀マシム之ヲ聞キ大ニ怒テ曰ク嚮ニ約ス明主我ヲ封シテ明主トセント故ニ命ジテ師ヲ班ス我ヲ我国ニ王トスルニ至テハ何ソ明主ノ命ヲ煩サン即チ諸將ヲ召シ告テ曰ク宜シク速ニ明使ヲ還スヘシ朝鮮和ヲ求スルモ決シテ許スヘカラス我再ヒ大兵ヲ興シ朝鮮ヲ勦滅セントス其使ヲ拒テ見ス秀吉

諸將ヲ會シ再征ヲ議ス又人ナシテ朝鮮ノ使黄慎ニ謂ハレム曰ク来歳當ニ汝カ國ヲ討スヘシ汝國ニ帰リ宜シク王子ヲ遣シ恩ヲ謝スヘシ黄慎大ニ懼レ明使惟敬ニ告ク惟敬信セス已ニ肥前ニ至ル秀吉人ヲシテ書ヲ以テ惟敬ノ所ニ至ラシム明使以爲ク必ズ謝表ナラン之ヲ讀ハ朝鮮國王ニ貽ル書ナリ其三罪ヲ責ム曰ク朝鮮明國ノ支情ヲ隱シテ告サル一也王子来謝セサル二也明ノ通聘ヲ沮格スル三也李肱書ヲ得テ大ニ駭キ使ヲ明ニ遣シ援兵ヲ乞ヲ

二年秀吉諸將ヲシテ兵十三万餘ヲ卒ヒ五路ヲ分チ朝鮮ニ入ラシム至處一人敢テ拒クモノナク諸城皆降ル國王李昭妃嬪ヲ將テ海州ニ奔ル朝鮮復大ニ亂ル明主大兵ヲ出シ朝鮮ヲ救フ三年八月豊臣秀吉薨ス遺言シテ西征ノ諸軍ヲ召還ス

朝鮮ハ往古ヨリ我ニ朝貢ノ國ナリ中古我國ノ衰フルニ及ンテ絶テ朝貢ヲ尺ヶ数百年却テ支那ノ先驅ヲナシテ我西邊ニ寇スルニ至モ問罪ノ軍ヲ起シ彼ノ彈丸黒子ノ朝鮮ヲシ

シテ我國威ヲ知ラシムル能ハズ嗚呼悲哉実ニ
文禄元年豊臣秀吉憤然九世ノ讐ヲ報國恥ヲ
雪ント欲シ百万ノ兵ヲ起シ一ヨリ海ヲ渡シ
ハ衆軍敗走諸城潰散国王奔散太子生擒ノ道
ノ瓦解救フヘカラサルニ至ル此ニ於テ猶オ
國恥ヲ雪クニ足ル況ンヤ再征ニ於テヲヤ皇
祖在天ノ靈ヲシテ之ヲ知ラシメハ以テ瞑目
スルニ足ン天若シ秀吉二年ヲ假サハ明ノ顛
覆豈ニ覚羅氏ヲ待ン況ンヤ雞林ノ一小國ヲ
ヤ

蓋シ聞ク明治天皇新政ノ明治三年ニ使ヲ朝鮮
ニ遣シ即位新政ヲ告ケ且ツ朝貢ヲ促ス朝鮮ノ
報書其畧ニ曰ク先年我國ノ疲弊ニ乗シ貴國ノ
大臣豊臣秀吉ナルモノ威力ヲ逞ウシ始ント我
國ヲ蚕食セントス此時ニ當テ勢力足ラス援兵
継ズ食尽キ城陷リ止ムヿヲ得スシテ屬國ノ姿
ヲナシタルモ心服臣支スルニアラス殊ニ我國
米佛諸國ノ戦艦ト紛擾ヲ釀シ数万敵艦鷄林ニ
近キ國民必死ヲキハメ骨ヲ炊イテ薪ニ換ヘ肉
ヲ割イテ食ニ當ルモ貴國一介ノ使ヲ来サス一

卒ノ救援ヲ遣サス隣國ノ好誼果シテ安ンカアル況ンヤ屬國ヲ以テ我ニ望ムヘケンヤ秀吉一タヒ我國ニ深入セシヨリ我國民ハ怒ミ骨體ニ徹シカラヲ量リ勢ヲ測リ貴國ニ報ント欲ス貴國若シ戰艦ヲ発シ我國境ニ臨マハ敢テ辞セス貴國若シ来ラズンバ或ハ我ヨリ問罪ノ師ヲ発スルアラン

朝鮮國ノ我國ヲ蔑視スル此ノ如ク何ソ夫レ甚シキヤ日本ノ國民タルモノ此ノ傲慢ナル報答ヲ聞カハ孰レカ切齒ヒサラン然リト雖モ朝議之ヲ寛待シテ屢使ヲ遣シ好誼ヲ遂ント欲スルハ何ソヤ彼ノ朝鮮蠢尓タル一蠻國ニシテ古ノ墨守シ今ヲ非議シ方今ノ形勢ヲ知ラサル頑陋國ナルヲ知レハナリ故ニ屢使ヲ遣スハ彼ノ改議シテ好誼アランヲ望ムナリ然ルニ益々謬シテ改メズ頑然固守シテ変セス其傲慢初ニ異ルナキヲ以テ明治六年西郷副嶌ノ舊參議ヲ始トシテ大ニ征韓ヲ首唱ス天下囂然之ニ和唱ス朝議殆ント朝鮮ニ支アラントス已ニシテ朝議両派ニ分レ遂ニ征韓ノ議行レサルヲ以テ西郷副

嶌江藤ノ諸參議ヲ始トシテ征韓ヲ唱フル在朝ノ諸公陸續官ヲ辞シ去ル遂ニ佐賀ノ内乱ヲ釀シ遂ニ臺湾征討トナル

朝議殆ント罪ヲ朝鮮ニ問ント欲シテ断然之ヲ改議スル所以ノモノハ何等ノ深謀遠慮アルヤ得テ知ルヘカラス兵力足ラサル乎資用継カサル乎國民和協セサル乎朝鮮改非スル乎此数ノモノ皆然ラス此ノ如キハ朝議ノアル所果シテ如何是益彼ノ暴議ヲ寛待シ改非ヲ待テ好誼スル所アラントスルナラン若シ朝議ノ暴議ヲ寛待シテ改非ヲ待ツト云ハ何ノ臺湾ノ生蕃ヲ待スル此ノ如ク厳ナルヤ一タヒ罪ヲ我藩國琉球ニ受レヲ以テ数万ノ軍海ヲ渡テ問罪センヤ何ッ朝鮮ノ如ク寛待改非ヲ待テ好誼セサルヤ其費用亦朝鮮ヲ征スルト恐ラクハ甲乙ナカラン臺湾ヲ征スルニ於ケルヤ國民喚リ議セス兵ヲ海外ニ出スハ同シク一ナリ兵勢足ラサルニアラス縱ヒ臺湾ハ朝鮮ニ比スレハ小國ナリト雖ヒ一タヒ兵ヲ海外ニ出スニ於テハ何等ノ変急アル

ヤ知ル可ラス且ツ全勝ヲ須期スヘカラス若シ臺湾我國ニ對シ暫クモ恕スヘカラザルノ罪悪暴動アルヲ唯我藩國ニ對シテ暴動アルノミ然ルヲ征討シテ我國ニ對シテ非理非礼ノ朝鮮ヲ征討セサレハ朝議何等ノ深謀遠慮アルヤ得テ知ルヘカラスト云フ

明治八年九月十二日雲揚艦ヲ以テ支那牛莊ヘ向ヶ航海シ十五日午後一時朝鮮國平安蔦青山鎮ノ港ニ入ル誤テ海水淺處ニ乗リ上ケ艦膠シテ動ズ漸ク難處ヲ脱シ十七日午後四時半同國都城ノ河口ニ至ル此所ヨリ王城ヲ隔ル二十里一日此ニ投錨シテ二十日同所ヲ発シ行ヽ僅ニ五里ニシテ碇泊ス午前十字哨船ヲ以テ上流ニ遡ル三里許ニシテ砲臺三所アリ彼三砲臺ヨリ突然大小銃ヲ以テ亂発ス我哨船ヨリハ小銃ヲ以テ應砲ス其後チ本艦ヨリ大砲ヲ以テ應砲ス攻戦半間ニシテ敵兵散乱ス我哨船亦タ本艦ニ退船ス二十一日午前七時艦長何某氏艦内ノ衆ヲ召シ整列セシメ乃チ議シテ曰ク今此ノ地ヲ去ルヘキヤ又ハ砲臺ニ向テ発艦彼ノ暴動ヲ報

ユ我本艦ノ耻辱ヲ雪クベキヤ否ヤ衆皆奮テ云ク彼ノ朝鮮一應ノ訊問ナク猥リニ我舟ニ乱砲ス若シ之ヲ置テ問ハズンバ本艦ノ大耻何ヲ以テ之ニ如ン寧ロ本艦ヲ向ケ彼ニ報シト欲ス艦長即チ令ヲ発シ直ニ彼ノ砲臺ニ近ク第二砲臺ヲ焼烋シテ第三砲臺ニ進ントス距離僅ニ十三町ニシテ彼レ烈シク妨戰ス砲撃数十分砲臺堅固且ツ潮流急ニシテ舩ノ運轉自由ナラス依テ休戦午後四時京幾道宗城ヲ距ル二里許ニシテ碇泊ス二十二日午前六時永宗城ノ東南城ヲ距ル十四丁許ス江桿嶌ニ進ミ夫ヨリ十町許ノ距離ニ至リ急ニ發砲ス敵兵大ニ敗走ノ色ヲ顯セリ遂ニ上陸シ我兵三十一人西東兩門ヨリ攻撃ス敵兵城門ノ左右ヨリ小銃亂発スル雨ノ如シ我兵必死ヲ決シ奮戰石垣ニ蟻附シ城ニ上リ西門外ヨリ火ヲ放テ進撃ス敵兵大ニ狼狽シテ敗走ス此日我兵死傷僅ニ二人敵ノ死者三十余名生獲十一人其外海ニ溺没スルモノ無算兵器捕獲亦許多ナリ午前九時ニ至テ城郭全ク集土トナル我兵深ク追撃セスシテ本艦ニ還ル

甚哉朝鮮國ノ暴動虐行ナルヤ彼屢傲慢無礼ヲ我國ニ加フト雖彼ノ固陋頑愚ヲ憐ミ益寛待シテ屢使ヲ遣シ好誼スル呼アラントス彼レ我國ヲ德トセスシテ却テ仇視スル日ニ深ク月ニ重シ遂ニハ我雲揚艦ニ向テ戰端ヲ開クニ至ル彼ノ朝鮮果シテ何ノ意ゾヤ是レ他ナシ維新ノ初メ使ヲ彼国ニ遣シニ其報書ニ曰ク豊臣秀吉一タヒ我国ニ深入セシヨリ怨ミ骨體ニ徹シ時ヲ量リ貴國ニ報シト欲ス貴國若シ來戰セズンバ我ヨリ出師其罪ヲ問

シト暴言セリ彼レ今マ我雲揚艦ニ向テ突然兵端ヲ開キシハ罪ヲ我國ニ問シト欲スルカ夫朝鮮ハ往古ヨリ我ノ属国タルヿ前條ニ於テ已ニ明瞭ナリ属國ニシテ不庭ノ討ヲ受シヲ以テ却テ怨トシ時ヲ量リ報シト欲スルハ何等ノ暴動ナルヤ然ト雖彼全ク古今我ニ朝貢ノ例ナシト言シ是レ一時ノ慢言我ヨリ視レハ一属國ナリ属國ハ縱令海外ニ在ルモ内部ト同ク一ナリ譬ヘ内部ニ叛臣在テ曰ン我カ祖宗ヨリシテ他國ニ臣支スルノ例ナシ

我祖此地ヲ開キテヨリ子孫土地ヲ維持シ他ニ朝貢ノ例ナキハ勿論今ニ迄テ封彊ヲ守リ決シテ他ノ正朔ヲ奉セス何者ゾ我ニ朝貢ヲ趣スト云フ傲慢虐行ノ者アラハ兵力資用ヲ問ス直ニ之ヲ討セン朝鮮ノ暴動殆ントコレニ類ス今ニシテ彼ヲ寛待セハ寛過キテ姑息トナル之ヲ討セスンハ国ノ権理ヲ失フニ至ラン知ラス大政府朝議果シテ如何

一ヒ雲揚艦ノ支起リシヨリ新聞紙上ニ筆戦止ムナシ或ハ征韓或ハ非征韓甲乙逓ニ起リ其筆勢當ルヘカラスト雖モ其二三ヲ挙テ之ヲ許ス

夫レ和戦ハ其利害天下億兆ノ人民ニ大関係アル者ナリ是ヲ以テ君民同治或ハ共和政治ノ文明国ニ於テハ必ス此クノ如ク大事件ヲ議定スルヲ以テ國會議院ノ権内ニ委シ決シテ君主或ハ大統領或ハ内閣大臣ノ専断ニ任セサルナリ今ヤ我国ハ往韓ノ議ヲ可否決定スヘキノ時也ト雖モ我國體ハ未タ全ク君民同治ナラス諸大臣之ヲ議定シ天皇之ヲ允裁シ玉フノ外ナカル

ベキ次僕或ハ恐ル諸大臣中各其見ヲ異ニシ其議ノ適ハザルヿアツテ廟堂ノ形狀再ヒ一昨年ニ髣髴タルニ至ランヿヲ若シ幸ヒニシテ此ノ如キヿナク諸大臣一致同心シテ和戰ノ一ヲ決スルニモセヨ国人果シテ其決議ヲ以テ心ニ滿足スルヤ否ヤ未タ知ルヘカラザルトリ抑モ斯ル困難ナクシテ天下ノ大妄ヲ可否決定スルノ方法ハ国會ヲ設立シテ之ヲ議定セシムルニ如クハナシ然リト雖ヒ今ヨリ急ニ國會ヲ設立シテ征韓ノ妄ヲ議定セントスルヒ所謂敵ヲ見テ

箭ヲ制スル者ニ近ク到底之ヲ後クレタリト謂サルヘカラズ僕ヲ以テ之ヲ謀レバ今回ハ不時ニ地方官會議ヲ開キ此妄件ヲ委シク其衆論ニ因テ決定セシムルヲ善シトス是レ令參議官ハ各地ノ貧富軍需ニ應ズルニ足ルヤ否ヤ又ハ人民目下ノ景況和戰ニ如何ナル利害アルヤヲ熟知スベケレハナリ

和戰ハ天下ノ大関係ニシテ其得失人民ニ嘗係スルハ固ヨリ論ヲ待ズ若シ一タビ兵ヲ海外ニ出タセバ全勝預期スベカラス縱令必勝

ヲ期スルモ児ヲシテ父ヲ失ハシメ婦ヲシテ
天ヲ失ハシノ父ヲシテ子ヲ失ハシムル其民
人ニ大管係アル豈徒此ノ如クニシテ止ムヘ
ケンヤ是レ和戦ハ人民ト議セザルヲ得ザル
所以ナリ然リト雖モ國ニ叛臣アリ朝命ヲ距
クカ如キハ縱令國中ノ人民不可ト云フモ征
討セザルヲ得ズ若シ人民不可ト云フ有テ反
臣ヲ討セズシテ増長セシメハ其害豈ニ財ト
兵トヲ費スニ於テ止ムヘケンヤ人民ニ議カ
リ兵ヲ起スハ此レ今日ノ朝戦征討ノ時ニ於

テ論スベカラズ朝鮮ハ我國ノ反國一日モ恕
スベカラズ宜シク速ニ問罪ノ軍ヲ出スヘシ
豈ニ地方ノ會議ヲ待テ好誼ヲ謀ルノトキナ
ルベケンヤ

日本朝鮮ノ評論「ヘラルト」澤田氏譯

抑三年以前朝鮮國ハ傲慢無礼ノ答書ヲ作リ日
本國ヘ報シタリト其支ハ實ニ似タレ𪜈當時副
嶌氏外務卿ナリシガ更ニ此ノ如キ書ヲ領取セ
ズトイヘリ日本人ハ彼ノ無礼ヲ重サマスルニ及
ンデ報讎スル所有ラント機會ヲ待テ𪜈案ニ相

違シテ其望ヲ遂クルヿ能スサレバ征韓ノ企ハ確乎シテ變ゼズ朝鮮海岸埠頭ノ景況ヲ窺ヒ知ルノ目途ヲ以テ竊カニ二船ヲ出シ探偵ニ尽力スルコト數月以テ今日ニ至レリ兼テ期シタル如ク朝鮮人ハ日本人ニ敵對ノ色ヲ見ハシ二船ノ一ニ向ヒ発砲シタルヲ以テ砲臺ヲ巧擊シ之ヲ奪取リ敵ニ報ヒタリ

日本政府ハ布告ヲ出シ昨日ノ諸新聞紙ニ見エタレト布告ハ虚飾ヲ免レズ其雲揚艦江華嶌ヨリ支那牛建ヘ向ケ航海中日本國旗ヘ對シ不意ニ乱妨シタリト云ルハ其言ヲ設ケタルモノニシテ日本軍艦ハ朝鮮近海ニ在テ海水ノ浅深ヲ測リタルニ朝鮮人ハ之ヲ止メンヿヲ謀レバ日本人曾テ去ラズ却テ朝鮮砲臺ヨリ弾丸ノ達スベキ距離ノ内ニ在ルヲ以テ其砲擊ヲ受ケタルヿ明瞭ナリ又日本軍艦ヨリ一隊ノ人数ヲ上陸セシメントスルヲ以テ朝鮮人ハ勉メテ防禦シテ逐ヒ返シタリト見ユ翌日日本人ハ兵威ニ因テ砲臺ヲ攻擊シテ之ヲ乗取リ分捕ヲナシタリ朝鮮人ハ幾許死シタリヤ我輩未タ報ヲ得サレ

氏日本人ハ逕我二人アリ斯テ雲揚艦ハ長崎ヘ
着帆シ電信ヲ以テ右ノ次第ヲ政府ヘ申上シケ
レハ政府ヨリ雲揚艦ノ艦長ニ速カニ登京シテ
其始末ヲ言上スベシトノ命有リ其後聞キタル
説ニハ彼ノ日本國旗ニ発砲シタルハ只朝鮮地
方ノ暴動ニ出テタルモノカ將タ其政府ノ命ニ
出テタルカヲ詰問スル爲メ日本ノ砲船ガ一隻
同國ヘ向ヶ出帆シタリトノフナリサレド恐ク
ハ朝鮮ニ向ヒ詰問ヲ爲スモ無益ニ近カレトセ
ン今ヤ既ニ血ヲ彼土ニ流セリ若シ砲船朝鮮ニ

至リ彼ノ大砲ノ達スル所ニ入ラハ或ハ又砲撃
セン野蠻未開ノ朝鮮ニ向此開化諸國ノ例ニ因
テ先ツ戦否ヲ断判シ而シテ後支ニ從フヲ望ム
フハ能ハザル者ナリ故ニ彼レハ彼レノ風習ヲ
株守シ開化諸國戦鬪條例ヲ顧ミサルヘシ是ニ
由テ之ヲ觀レハ二國兵ヲ構ヘズシテ何ヲカ爲
サン然ルトキハ朝鮮人ハ其區域ヲ守ルヘシ日本
ハ客トナルヘシ日本ハ軍備整フヤ否ヤ直チニ
朝鮮人ニ向ヒ問罪ノ師ヲ出スナラン日本政府
ハ「マルガレイ」氏横死ノ一條ニ付英清葛藤ヲ虫

ジ之ガ爲ニ清國政府其隣國ニ應援スルニ遑アラサラシ丁ヲ僥倖セザルニ非ズ今日ニ在リテ日本ハ清英兵端ノ開クヲ渴望ス故ニ二國ノ景況ニ耳ヲ傾ケ目ヲ注クベシト云々

日本人ハ彼ノ無礼ヲ重サヌルニ及ンデ報讎スル所有ラント機會ヲ待テ兎ニ相違シテ其望ヲ遂クル丁能スサレ兎征韓ノ企ハ確乎トシテ變セス云々ハ我國朝鮮ノ弱小ナルヲアナトリ兵力ヲ頼ミミタリニ兵ヲ起シテ彼ノ朝鮮ヲ服屬セシムルヲ企ルカ如シ彼ノ朝鮮縱ヒ弱小ナルモ獨立ノ一王國ナラハ我之ヲ待スル隣國ノ交際ヲ以テ之ト交通ス何ソ況ンヤ朝貢ヲ趣シ其不庭ヲ問ンヤ若シ朝鮮我國ノ屬國ナラズバ其直彼ニ在テ其曲我ニ在リ何シハ則チ維新ノ始使ヲ彼ニ遣シ朝貢ヲ趣スニ彼レ暴慢ノ報答アリシヲ以テ征韓ノ議起ル若シ彼屬國ナラズハ我國ノ朝貢ヲ趣セシハ固ヨリ暴行ニシテ野蠻未開國ノセサル所況シヤ我国ノ所爲ナラン朝鮮固ヨリ屬國云々ヲ討スルニ彼ノ無礼ヲ重サヌルヲ待テ報讎センヤ機會ナクシテ其望ヲ

遂ルアタハスト云フハ我國ヲ以テ注メタリニ他國ヲ蚕食スル一暴國ト見做スカ我國ヲ誣ル何ソ如此キ甚シキヤ

佐賀縣　溝上忠友

江華ノ一事以来世論囂々或ハ曰ク朝鮮討ツ可シ或ハ曰ク討ツ可カラズト二説共ニ未タ可ナラズ余ヲ以テ之ヲ観レバ義討ツ可キハ則チ之ヲ討チ討ツ可カラザレバ則チ止マンノミ故ニ我大政府先ツ使ヲ彼レニ遣レテ以テ江華暴発ノ挙ヲ責問セバ可否則チ判然スベシ余カ輩唯手ヲ束ネテ告命ノ如何ヲ待ツノミ然ルニ論者或ハ切齒扼腕シテ曰彼レ頻年亡狀ノ餘遂ニ今日ノ暴挙ニ及ブ則チ軍艦ヲ釜山浦ニ発シ彼ガ罪ヲ鳴ラシ一挙京畿蹂躪シ王后ヲ擒ニスベシト是レ過激ナリ論者又曰ク我ガ政府目今帑藏空乏ス此時ニ乗テ一旦干戈ヲ動サバ民力内ニ疲弊シ國債外ニ累積シテ終ニ万國ノ侮辱ヲ受ルニ至ラン若カシ暫ク此ノ小恥ヲ忍ビ我ガ國人能ク内治ニ勉勵シ人心ヲ和シ財貨ヲ阜ンニ

レ文教武備尽ク厳整ニ至リ内ニ省ミテ疚シカラザルノ時ヲ待チテ大挙以テ其罪ヲ問フベシト是又因仍老娑ノ談ト謂フベシ請フ試ミニ之ヲ論ゼン抑我國ハ亜細亜東端ノ一小島ニシテ文明ト称スル所ノ欧洲其他ノ各國ト相交リ彼ノ國モ亦相信シテ其交誼ヲ失ハズ然ルニ今自ラ卑屈ノ心ヲ抱キ一ノ朝鮮國ヲモ討ツ可ラザルノ疲弊國トスルカ誤認ノ甚シキ実ニ歎ス可シ蓋シ論者或ハ支那ノ彼レヲ救援センヿヲ恐ルヽナラン若シ支那果シテ救援セバ之ヲ併セテ討ツベシ其軍資ノ如キハ余豫算スル所アリ請フ之ヲ静思セヨ我國債ニ入ルヽ所ノ米金額幾何且ツ華士族坐食スル所ノ者幾何ナルヿヲ若シ一旦兵ヲ接ユルノ時至ラバ軍器ヲ購求スルノ外一切ノ外舶ノ輸入ヲ禁シ内ハ不急ノ解署ヲ閉チ冗官ヲ汰シ華美ノ建築ヲ止ム数者ノ費用ヲ枝テ以テ軍資不足ノ預備ニ充テナバ支那ノ大國ニ當ルモ何ノ難キヿカ之レ有ン又内國人民ノ不和ヲ憂フルカ是又然ラズ若シ外國ト兵ヲ構フノ事アラバ無知蠢愚ノ細民ニ至ル

マテ一致同心粉骨碎身シテカヲ竭スヿ必セリ況ンヤ慷慨憂國ノ人ニ於テヲヤ是レ我ガ國民固有ノ肝膽ナリ然ルヲ名分有無ノ大義ニ閉セズ之ヲ討ツハ損トシ討タザレバ得トスルカ如キハ余ガ肯テ取ラザル所ナリ又文教武備ノ尽ク嚴整スルヲ待ツハ是レ亦迂遠ナリ今日ハ今日ヲ以テシ明日ハ明日ヲ以テスベシ何ゾ必スシモ武備ノ尽ク整フル日ヲ俟ンヤ且ツ思ヘ往古聖代ト唱フル文武ノ世ニ當リテ電線有ルカ鐵艦有ルカ鉄路有ルカ之ヲ降テ近代我正親町天皇ノ御宇ト今日ノ景況ト比較シテ如何ゾヤ彼レ野蠻ナレバ我亦未タ文明ナラズ然レバ則チ何ソ前ニ勇ニシテ今ニ怯ナルヤ是レ余ガ文武嚴整ノ日ヲ俟タスシテ可ナリト云所ナリ余故ニ曰ク朝鮮討ツ可シト云フモ未タ可ナラス討ツベカラズト云フモ亦未タ可ナラズ抑兵ハ凶器容易ニ動カス可カラズ故ニ今我大政府一タビ使節ヲ彼レニ發シ暴挙責問ノ日ニ當リ彼レ其非ヲ悔ヒ適當ノ償金ヲ納レテ以テ罪ヲ我節旄ノ下ニ謝セバ之ヲ万國ノ公法ニ照シテ以

テ其罪ヲ宥スヘシ然レトモ彼レ若シ亡狀其非ヲ遂ント欲ヒハ出師ノ命下ル丁必セリ此ノ日ヤ余モ亦自ラ反シテ縮クンバ千万人ト臣ヒ吾レ往矣ノ鋭氣ヲ以テ筆ヲ投シ以テ軍ニ彼ノ土ニ從ハンヿヲ是レ希フ豈ニ損ト得トヲ考フルニ暇アランヤ

世ノ論者動モスレハ輒チ曰ク朝鮮我國書ヲ擯ケ我國使ヲ辱シムル其暴慢無禮実ニ言フニ忍ビズ今ニ及シテ之ヲ討セズンバ何ヲ以テ國威

朽木縣　鈴木幹興

ヲ海外ニ輝カスヲ得ント此論ヤ必竟愛國ノ至情ニ出ルト雖モ其國威ヲ輝カスハ征韓ニ在ラズシテ却テ非征韓ニ在ルヲ知ラズ何トナレバ彼ノ朝鮮ノ如キハ未開ノ蠻國ニシテ之ヲ我國ニ比較スレハ豈ニ當雲泥ノ懸隔ノミナラン此ノ如キ未開國ナレハ或ハ我ニ無礼ヲ加フルモ何ソ齒牙ノ間ニ置クニ足ラン縱令之ヲ征シテ勝モ我國カヲ減シ我國債ヲ増ス若干ナルヘシ又爲ンソ國威ヲ輝カスニ足ン縱令ハ大人ト小兒ト角カスルカ如シ縱令大人小児ニ勝ツモ人

孰カ之ヲ賞譽セン然ラハ則チ征韓ノ害有テ利ナキ三尺ノ童子ト雖モ亦以テ辨知セン而ルヲ征韓ヲ唱ル者ハ狂ニ非レハ愚ニ今ノ時ニ當リ國威ヲ輝サント欲セハ貿易ヲ盛ニシ学業ヲ勉メ歐米諸國ニ對シテ毫モ愧ルヿナキヲ期スヘレ是余輩執心シテ三千五百万ノ兄弟ニ忠告スル所ナリ

朝鮮新論了

萬笈閣製本專賣書屋

東京

須原屋茂兵衛
山城屋佐兵衛
和泉屋市兵衛
三家村佐兵衛
須原屋伊八
和泉屋金石衛門
出雲寺萬次郎
岡田屋嘉七
須原屋新兵衛
和泉屋吉兵衛
須原屋佐助
中島靜助
藤岡屋慶次郎

東京

山口屋藤兵衛
森屋治兵衛
雁金屋清吉
和泉屋勘右衛門
山城屋政吉
村上店
鈴木喜右衛門
紀伊國屋源兵衛
紀伊國屋梅次郎
紀伊國屋德藏
大坂屋藤助
袋屋龜次郎
河内屋文助

西京

菱屋孫兵衛
勝村治右衛門
出雲寺文次郎
田中屋治兵衛
吉野屋仁兵衛
吉野屋甚助
堺屋仁兵衛
堺屋九兵衛
丹波屋德次郎
錢屋總四郎
菁屋宗八
福井孝助
書籍會社
書林會社

大阪

河内屋喜兵衛
伊丹屋善兵衛
河内屋源七郎
近江屋平助
敦賀屋九兵衛
秋田屋太右衛門
河内屋太助
河内屋和助
河内屋茂兵衛
河内屋吉兵衛
河内屋德兵衛
河内屋卯介
河内屋龜七
河内屋忠七
河内屋重助

尾州名古屋

永樂屋東四郎
萬屋東平
菱屋藤兵衛
菱屋平兵衛
美濃屋伊六
美濃屋文次郎
美濃屋代助
永樂屋正兵衛
金網屋伴五郎
文教堂保兵衛
岡安慶助
柏屋善七
朴屋重兵衛
車平次郎
藤屋傳右衛門

駿州沼津

水屋浦吉
水屋壽三郎
水屋源介
浪花屋市藏
須原屋善藏
東屋俊平
伊勢屋青七
伊勢屋權平
白木屋傳二郎
松原德太郎
水屋文吉
加藤利兵衛
鹿島十兵衛
吉田屋善太郎
本屋仿兵衛

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
濃州大垣
同岐阜
飛州高山
越中高岡
甲州山梨

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
駿府
同西尾
勢州四日市
同津

同　村田屋孝太郎　同　山田　藤原屋長平
信州長野　小桝屋喜太郎　越中富山　中村屋甚吾
同　蔦屋伴五郎　同　古川屋吉兵衛
同　上田　鼠屋甲造　同　上市屋宇兵衛
同　飯田　十一屋半四郎　越後長岡　鳥屋十郎
同　須坂　和泉屋吉右衛門　同　中村屋作平
武州深谷　酒井省吾　同　上田屋治八
同　忍　原田清太郎　同　三條屋七十郎
下總野田　梅屋林藏　同　柏崎　高桑屋小兵衛
同　佐原　正文堂利兵衛　備州岡山　中島屋益太郎
野州宇都宮　萬年屋忠兵衛　長州萩　山城屋彦八
同　荒物屋伊右衛門　羽前山形　北國屋彌平治
岩代若松　龍田屋萬助　同　十一屋源助
同　福島　丁野屋彦太郎　同　谷地　田宮五郎
陸中仙臺　菅原屋安兵衛　羽後秋田　岡田惣兵衛

東京五大區三小區淺草西三筋町十三番地
編輯人　總生寛
明治九年一月十八日
東京書林　本石町二町目　江嶋喜兵衛版

總生寛編纂

朝鮮新論

東京書肆　萬笈閣發兌